

## ■単元の目標

株での損得を正の数，負の数を用いて学習する。

## ねらいと評価

## ■本時（教材）のねらいと解説

本時のねらいは，株価での損得を正負の数を用いて表すことである。

私達の身の回りにはゴルフのスコアー，山の高低差など，正負の数で表すことができる様々な事柄がある。その中には，ある値を基準にしたときの株価の変動もあり，この月ごとに変化する株の値段を正負の数で捉えることができる。

また，3年生の社会科の授業でも，金銭教育の一環として株についての学習を行っている。そこで，正負の数で学習したことが様々な場面で使われていることを改めて実感することができる。

## ■評価のポイント

- ・ 数学への関心・意欲・態度

正負の数で学習したことを使って，課題を解決しようとすることができる。

- ・ 正負の数で学習した乗法計算を利用して課題を解決することができる。

## 展開と対応

## ■授業展開のポイント

導入では，地域の会社やテレビで出てくる有名な企業の株価を取り上げ，生徒の株価への興味を高める。

次にグラフの見方の確認と，正負の数の乗法と加減の計算を用いて計算することができるように，①の問題を考えさせる。その際，A社を9株，B社を6株購入することと，4月での1株あたりの購入金額1,000円が基準になっていることを生徒に十分理解させる。

そして，1,000円を基準にしたときの株価のグラフを基に株の値段を求め，9月での株の利益と株の購入や1月で株を精算したときの金額を正負の数を用いて求めさせるために，②の問題を考えさせる。

最後に，時間に余裕がある場合は，問題作りを行い，作った問題を友達と交流することで生徒の発想を広げるようにする。

## ワークシート 解答

	5月	6月
A社での株の損益	-3,600円	-5,400円
B社での株の損益	-1,200円	+1,200円
A社，B社を合わせた株の損益	-4,800円	-4,200円

- ② 9月にA社の9株分をすべて売って，B社の株を6株分買ったときの差し引き金額は  $1,300 \times 9 \text{株} = +11,700 \text{円}$ ， $700 \text{円} \times 6 \text{株} = -4,200 \text{円}$ ， $11,700 \text{円} - 4,200 \text{円} = +7,500 \text{円}$

最初から持っていたB社6株分と合わせて，B社の株12株を持っていることになる。

1月に持っているB社の株12株をすべて売ると  $800 \text{円} \times 12 \text{株} = 9,600 \text{円}$

9月のときの利益と合わせると  $9,600 \text{円} + 7,500 \text{円} = 17,100 \text{円}$

よって，母親には借りた10,000円を返すことができ，手元に7,100円が残る。最初に持っていたのは5,000円なので， $7,100 \text{円} - 5,000 \text{円} = 2,100 \text{円}$  2,100円の利益を得たことになる。

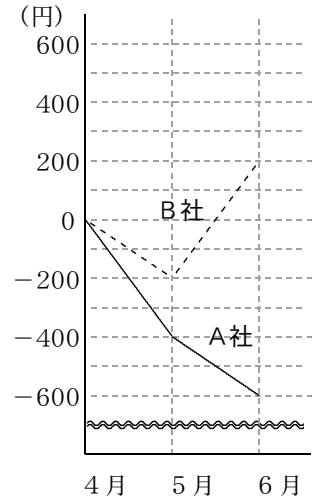
# 株でもうけてみよう

組 氏名

ゆうすけさんは貯めていた5,000円と、母親から10,000円を借りて、株を買ってお金を増やすことを考えました。そこで、ゆうすけさんは4月にA社の株を9株、B社の株6株を買いました。

A会社もB会社も株価は4月の段階で、1株あたり同じ1,000円でした。その後【表1】のように株価は変化していきました。次の問いに答えなさい。

【表1】



※【表1】はA会社とB会社の月ごとの1株あたりの株価の動きを表したものです。1,000円を基準にしたグラフになっています。

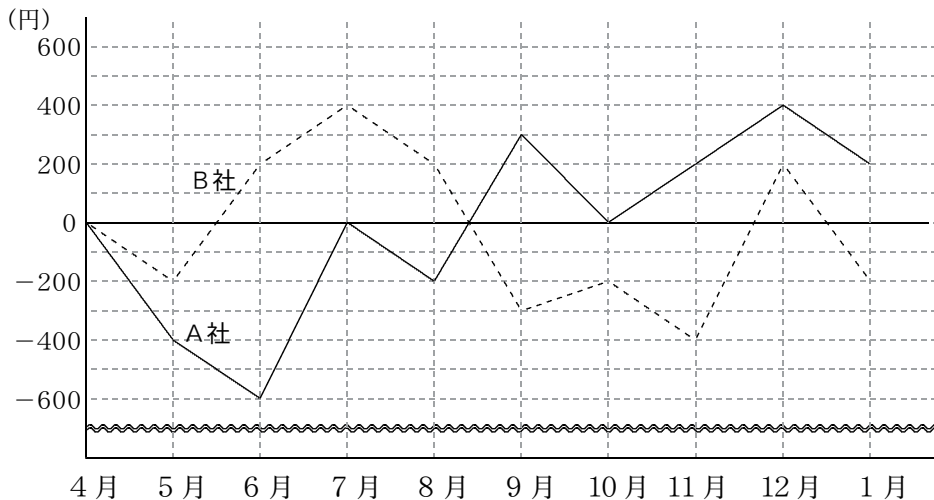
————— A社  
 - - - - - B社

1 4月と比べて、5月、6月でのゆうすけさんのA社とB社を合わせた株での損益をそれぞれ計算しなさい。

	5月	6月
A社での株の損益		
B社での株の損益		
A社、B社を合わせた株の損益		

2 その後、ゆうすけさんは9月にA社の株をすべて売り、B社の株を6株買いました。そして、1月に株をすべて売り精算しました。ゆうすけさんは、お母さんに借りた10,000円を返すことができましたでしょうか。また、ゆうすけさんは、持ち金の5,000円から利益を得られたでしょうか。損益を正負の数で表しなさい。

【表2】 4月から1月までの株価の推移の結果



3 このグラフを使って、自分で問題を作ってみよう。